

うそを見破れ

班員 山崎 紅瑠美 木村 優作 松井 柚奈 西山 依穂 田中 美羽
指導者 川上真美先生 コーチ 水永正憲様

研究の動機

人は1日に無意識のうちに7~8回の嘘をしているらしい。

嘘をつく時の人間の仕草を知ることで嘘を見抜くことができると思ったから。

現代社会では嘘が多く飛び交っており、嘘を見抜く能力を身につけることで、より円満なコミュニケーションができ、仕事や人間関係において役に立つと思ったから。

研究の目的

人が嘘をつく時の仕草を調べ、それらの仕草の特徴を見つけ嘘を見破ることができるようになる

先行研究

- ・嘘をつく時の仕草は決まっている
(目や口を覆う、右上を見るなど)
- ・嘘には種類がある
(利益を得る、損失を避ける
他者の利益、他者の損失
ともに利益、ともに損失)
- ・嘘をつく原因は、自己防衛や承認欲求、恥ずかしさ、自己肯定感の低さ、パーソナリティ障害などがある。
- ・男女で仕草に差が見られる



仮説

仕草が一番嘘か本当か分かりやすい。
目線や声のトーンによって嘘についているか調べられる。

研究方法

- ・5、6人のグループでダウト(トランプゲーム)を行う。→ 被験者の顔を録画して仕草や目線を観察する
- ・ダウトを使った嘘についての先行研究は見当たらなかった。

必要な道具

ヒト
トランプ



結果

- ・先行研究からわかったこと
→顔や口元を触る隠す、目をそらす、瞬きが増える、声のトーンが変わるなど多くの仕草があることがわかった。
- ・ダウトの実験からわかったこと
→数字を言うのが早くなる、声が小さくなる(不安)、声が大きくなる(焦り)、声が高くなる(緊張)、声が低くなる(落ち着かせる)、周りと目を合わせようとせずカードを見つめるなどの行動がみられた。

考察

先行研究やダウトの実験より、嘘をつくときは普段しないような行動をしたり、嘘を隠すような行動をすることがわかった。
また嘘をつくときの行動には個人差があり、目線がよく動いたり、声のトーンが上下する人もいれば、表情などに出ない人もいた。

先行研究では男女差があるとあったが今回の実験では見つけられなかつた。

参考文献

<https://www.thepoport.jp/portcareer/article/14113> 16日

